

今週のメニュー

■トピックス

◇「エコチルまつり 2017」に参加

■随想

◇古代ヤマトの遠景〔番外〕(26)

木下 清隆

■編集後記

■トピックス

◇「エコチルまつり 2017」に参加

6月10日(土)~11日(日)に、北海道札幌市内にあるサッポロファクトリーにて「エコチルまつり 2017」が開催されました。本イベントは「子どもたちから始まる環境活動の輪」をメインコンセプトとし、エコチル開催実行委員会主催、北海道、札幌市、札幌教育委員会、北海道新聞社、HBC 北海道放送など北海道の新聞社、テレビ局が後援で全国から多くの企業・団体が参加する北海道地区で開催される環境イベントとしては最大規模で、今回4回目の開催となります。塩ビ工業・環境協会(VEC)では、塩ビ製品が身近なところでどのようなところに使われ、持続可能な社会実現に貢献しているかをより一般消費者、特に子どもたちに広く認識してもらうため、また環境学習の一翼を担うべく、今年初めて参加いたしました。



エコチルまつり 2017 会場



VEC ブース

VEC ブースでは、いろいろなプラスチックがその特性に応じた様々な場面に使用され、暮らしに役立っていること、その中でも塩ビが省資源、長寿命な素材でマテリアルリサイクル性などの環境性能に優れていることを理解していただくため、パネルと様々な製品を展示、紹介いたしました。また、硬質塩ビシートを使ってサバンナで住む生き物たちのセットシートを作製、カバ、キリンなどをその場で組み立てていただく企画で、子供だけでなく大人にも楽しんでもらい、同時に塩ビの印刷性の良さなど硬質塩ビの特長を、実際に触ることで理解していただきました。

シートから切り抜き組み立てるだけで様々なサバンナで住む生き物たちが簡単に組み立てられることが人気で、時間を忘れ没頭する子どもたちが沢山見受けられました。また、用意した塩ビ製キャラクター消しゴムが人気で、用意していた1,000個の消しゴムが全て無くなりました。



プラスチックで遊ぼう
「サバンナの動物を組み立てよう」

一緒に参加していただいた保護者の方々には、省エネに貢献している塩ビ製樹脂窓や食品サンプル、リサイクル材で作られた塩ビ管など様々な用途で塩ビ製品が使用されていることの説明に興味を持っていただきました。これまでも同様の環境イベントには参加して参りましたが、今回参加いただいた家族のみなさんも環境意識が非常に高く、塩ビが省資源で、リサイクル性にも優れているとの説明を熱心に聞いていただきました。2日ともあいにくの悪天候にもかかわらず、会場近くでYOSAKOIソーラン祭りも開催されていたこともあり10,000名もの方が参加され、VECブースには総勢1,500名以上の方々に来場いただくことができました。

また、両日ともステージイベントにも参加させていただき、「エコ素材PVCってなに？クイズ」で塩ビの特長をクイズ形式で判りやすく紹介、多くの家族のみなさんに参加していただきました。各ブースで食育や工作・体験教室に参加された方々は有意義な時間を過ごされたことと思います。今回初めての参加でしたが、お世話をされた実行委員会の方々の努力が無事に終えることが出来ました。感謝いたしますと共に、今後ともこの活動を応援していきたいと思っています。



ステージイベントの様子

■ 随想

◇古代ヤマトの遠景【番外】(26)

木下 清隆

<前回とのつながり>

これまで度会氏は、失地回復のため大若子命を櫛田神社の祭神にした、『太神宮本記』を著して大いにPRした等を説明したが、今回は、その素晴らしい成果の話である。

【梅宮大社】

以上の論議において一つの仮説として導入されている大若子命の宣伝問題がある。これは先に度会氏が持統朝或いはその後の時代になって起きた「出雲隠し」に対処するため、戦略的に大若子命を宣伝したのではないかとする仮説であるが、実は、この宣伝の成果を証すると見られる有力な史実がある、それは梅宮大社である。この大社は京都嵐山の近くにある神社であるが、その祭神は酒解神、大若子神、小若子神、酒解子神の四座となっている。何でこんなところに大若子命が登場するのか不思議であるが、梅宮大社の由緒書きには次のように書かれている。



梅宮大社

「当社は今から凡そ千三百年前、橘氏の祖諸兄公の
^{あがたのいぬかい}
 母 県 犬養三千代が、山城国綴喜郡井出寺の中に
 橘氏一門の氏神として始めてお祀したのであります。その後、聖武天皇の妃光明皇后が之を祀り度々
 所在を転じましたが、嵯峨天皇の皇后橘嘉智子（檀
 林皇后）によって今の神域に移し祀られ自ら御幸
 して、お祭りになったのが有名な梅宮祭の起源で
 あります。その後、延喜式の名神大社二十二社の中
 に列せられ、明治四年官幣中社に列せられました。」



梅宮大社由緒書

この由緒書の中にある県犬養三千代とは、^{あずまひと} 県犬養東人の娘であり、敏達天皇の孫である美努王に嫁し、葛城王（後の橘諸兄）、牟漏女王等の母となった女性である。その後、七世紀末頃に藤原不比等と再婚したがその事情は良く分かっていない。彼女は天武、持統、文武、元明等の天皇に仕えたが、元明天皇からはそれぞれの天皇に忠誠を尽くしたことを称えられ、和銅元年(七〇八)に橘宿禰の氏姓を賜った。天平五年(七三三)に三千代が薨じたとき従一位を追贈され、後年更に正一位を贈られている。女性としては位人臣を極めたといえよう。橘宿禰の氏姓は彼女一代限りのものであったことから、先夫の子の葛城王は天平八年(七三六)に橘宿禰の継承を願い出て許されている。

不比等と三千代の間に来た娘の光明子は、聖武天皇の皇后となり光明皇后と称せられた。聖武天皇は東大寺の大仏造立に自分の夢を託し、これを完成させた。光明皇后は人臣にして初めて皇后となった女性であるが、正倉院を建て御物を後世へ残した。聖武天皇と光明皇后の間の娘が孝謙天皇である。

また、由緒書の中の橘嘉智子は橘諸兄の三世の孫であり嵯峨天皇の皇后となった女性である。京が平安京に遷ったことから、この皇后は梅宮大社を現在の地に移し、更に嵯峨天皇が建造した冷泉院（当初は冷然院と呼ばれていた。）の中でも梅宮大社の祭神を祀ったとされる。

県犬養三千代は梅宮大社の祭神を橘氏の氏神として祀ったと由緒書にあるが、主祭神は酒解神なのか大若子命なのかは不明である。なお、他の二神はそれぞれの子神であることから、親神のいずれかが主祭神とされたことになるが、まず酒解神を見てみよう。この神は、梅宮大社での別名は^{おおやまつみのかみ} 大山祇神とされており、なぜこの神が酒解神なのかを次のように説明している。

「大山祇神は、木花咲耶姫命が彦火火出見尊を御安産になったのを非常に喜び給い、狭名田の茂穂を以って『^{あめのたむさけ}天甜酒』を造ってお祝いなされたと日本書紀に載っておりますが、是が穀物を以って酒を醸した始まりであります。大山祇神を酒解神、木花咲耶姫命を酒解子神と称え奉る所以であります。」

内容は大山祇神の娘、木花咲耶姫命が^{ひこほほでみ}ニニギノミコトと結ばれて彦火火出見尊を生み、これを喜んだ父の大山祇神が酒を造って祝ったというものである。更に、「大山祇神は酒解神である」ことが主張されている。この神社側の説明の出典は、神代紀第九段の一書第三であるが、酒を醸した個所の内容は

「…ときに^{かむあたかしつひめ}神吾田鹿葦津姫は、^{うらへた}卜定田を狭名田と名づけた。その田の稲をもって、^{あめの}天^{たむさけ}甜酒を嚙んでつくり、お供えした。…」（訳宇治谷孟）

となっている。この中で神吾田鹿葦津姫とは木花咲耶姫命のことである。また、ト定田とは占いによって定めた神饌田のことである。この部分の神代紀の記述によれば酒を造ったのは大山祇神ではなく娘の木花咲耶姫命となっている。ここでは大山祇神は直接的には何の関係もないのである。ところがさも大山祇神が関係しているかのように、神社側の説明書きにはある。何故このような付会がなされているのだろうか。それは、無理にでも大山祇神を酒解神に結び付けたいとの強い意志があったからではなかろうか。その理由は定かではないが、何か大山祇神にしなければならない理由があったものと想定される。

この大山祇神はイザナギ・イザナミから生まれた神で、山の神とされているが『伊予国風土記』によれば、“百済の国から渡ってきた和多志の大神”とあり、和多志とは航海の神のこととされているところから本来は海の神だったらしい。山の神にされたのは記紀の撰述者によるものと考えられるが、記紀の中で、この神は素戔鳴尊と深い関係にあることが物語られている。素戔鳴尊が出雲に降り立ち、八俣大蛇から櫛稻田姫を助けた話は有名であるが、この姫の父親である足名稚^{あしなづち}は大山祇神の子とされている。このように大山祇神は記紀の中では深く出雲と係わりのある神となっていることは注目される。

(つづく)

この「古代ヤマトの遠景」に対し、ご意見・ご感想を頂ければ幸いに存じます。>> [\(筆者\)](#)
「古代ヤマトの遠景」: [バックナンバー](#)

■ 編集後記

関西では当たり前かもしれませんが、東京でもようやく英語以外に中国語、韓国語の案内を耳にする機会が増えて来ました。

街を歩くと外国人、この光景がいつの間にか当たり前になって来ましたが、観光立国を目指すには、まだまだ課題も山積かと思えます。2020年の東京オリンピック・パラリンピックを契機にますます外国人に日本の良さを理解して貰えるような環境整備が進むことを期待します。個人的には自動翻訳技術が更に進むことを切に祈っています。(笑) (鷹山)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <http://www.vec.gr.jp> ■ E-MAIL info@vec.gr.jp